



グルモール

JAPANESE SCHOOL, NEW DELHI 2020

<http://www.ndjs.org/>

第4号

令和2年9月30日

間もなく1年の折り返しの時期を迎えます。

この間、ご理解とご支援をありがとうございました。

校長 足立 浩

9月末、1年間（令和2年度）の折り返しの時期を迎えました。先の9月22日（火）にはオンラインによるPTA総会が行われました。コロナ禍の厳しい状況下、PTA役員の皆様の皆様のご尽力により、第一回PTA総会が開催できましたこと、また多くの保護者にご参加いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

総会を受け、小学部では24日（木）から個人懇談会を実施しました。各学年担任とお子様のオンライン学習の様子や今後のことについて、懇談いただいたことと思います。半年間でのお子様の成長、オンライン学習での頑張り、一時帰国や退学、インドに戻る時期等、今後の学校生活や進路について情報共有する貴重な機会となりました。また、これまでのオンライン授業等の取り組みに対して、感謝の言葉もいただきました。各ご家庭のご理解とご支援があつてこそ成り立つオンライン学習です。困難な状況の中、学校・保護者・関係機関の皆様が、手を携え支え合っていたいただいたおかげで前期を無事に終えつつあります。

インドにおける感染拡大はまだしばらく続くように思います。短期間での状況改善は見込めませんが、今できることをしっかりと取り組み、ニューデリー日本人学校再開への準備を進めていきたいと思ひます。

総会時の挨拶でも申し上げましたが、ニューデリー日本人学校の創立は1964年9月1日で、今年度は56年目となります。世界で3番目の日本人学校として開設されました。先日、創立翌年の1965年にニューデリー日本人学校に勤務されていた山下良一先生から激励の手紙をいただきました。その研究資料を読んで、設立当時のご苦労や関係者の熱意が伝わってきました。当時の『学校要覧』によりますと、校名は「在インド日本国大使館附属日本人小学校」（中学部は15年後の1979年設置）、児童数は24名、土曜日補習授業参加の補習科児童10名、初代校長は種谷清三氏（大使館公使）、教頭は斎藤敏彦氏（大阪学芸大学附属天王寺小）、他教員4名とあります。「父母の会」も結成され、月1回例会をされていたそうです。この「父母の会」の精神は、本校の校歌や校章とともに、現在まで大切に受け継がれています。

今、世界に日本人学校が95校あり、補習授業校もたくさんあります。在外教育施設においては、特に設立当時のご苦労や歴史から学ぶことが大切であり、そこには教育の原点、ニューデリー日本人学校の原点が見えてきます。「学校という教育の場で、プロの教師に学び、友達と高め合うことの大切さ、尊さを感じてほしい。残念ながら、それは親にはできない。」当時の保護者の貴重な思いを受け止めて、今の私たちも教育に当たらなければならないと思ひます。

来週には、前期の「オンライン学習のあゆみ」をお渡します。子どもたちは、コロナ禍の厳しい中でしたが、オンラインでの学習活動に一生懸命取り組んできました。前期終了の節目として、これまでの学習の歩み、一人一人の学びの足跡を文章表記等でお伝えします。頑張りは大いにほめていただき、気を付けることは振り返り、今後に生かしてほしいと願っています。後期も、引き続きよろしくお願ひいたします。